

< もくじ >	
1. 2025年度連続講座第1回の結果報告	1
2. 2025年度連続講座第2回・第3回開催のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 各研究会の概要報告	4
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2025年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part4」第1回の結果報告

■第1回テーマ：「終活のすすめ～悔いのない人生の締めくくりに～」

- 1) 日時：9月27日（土） 14：00～16：00
- 2) 講師：袖井孝子（シニア社会学会会長、東京家政学院大学特別招聘教授）
- 3) 参加人数：会場29名、オンライン12名
（会員19名、団体会員2名、非会員19名、不明1名）

<概要報告>



人生の終焉のための準備である「終活」の目的は、遺される家族が安心して暮らせるための手続きであるとともに、自分自身のこれまでを総括し、人生の残り時間を充実して生きるための準備でもある。

終活として取り上げられることの多い「断捨離」は、仏教的な思想にその源があり、物への執着から離れ、不要な物を捨て、快適な生活環境を創り上げることである。だが、その実行はかなり困難で、「もったいない、いつか役立つ」からの脱却が必要である。

人生の最終段階をどこでどのように過ごしたいかを決める終末期ケアについて、厚生労働省は複数の専門家と患者・家族によるACP（Advance Care Planning 人生会議）を普及させようとしているが、なかなか広がらない。その一因には、日本人、とりわけ高齢者は多数の人の前で自分の意見を表明することに長けていないことがあげられる。会田薫子・東大教授が提唱するように、医師・看護師・ソーシャルワーカーなどの専門職との個別の対話を積み重ねることによって望ましい最期の在り方を見出すことが望ましい。

エンディングノートには法的拘束力はないが、書いたものがあれば医師はそれを尊重するのが最近の趨勢である。「延命治療はしない」と口頭で伝えていても、明確な証拠がないと遺族間で紛争になり、裁判に至るケースもあるので、できれば書いておいたほうがよい。

相続や墓には、廃止されたはずの家制度が残存している。相続の際には、関係者全員の承諾書や印鑑証明、および戸籍謄本が求められる。会ったこともない親族やとうの昔に亡くなった親の戸籍謄本を取り寄せるのは大変な作業で費用もかかる。最近は墓じまいする人が増えているが、この場合にも関係者全員の承諾が求められる。手続きの複雑さを解消するためにも戸籍制度の廃止を訴えたい。

私自身の終活については、写真の整理や衣類を買い取り業者やホームレス支援に出した程度で、なかなか始められない。なるべく早く取り掛かりたいと思っている。

（袖井孝子 記）

以下、参加者の感想の一部を、アンケートの下記の質問に対する回答よりご紹介します。

【問3-1】「今回の講座で、特に関心を持たれたのはどのようなところですか。」

- * 高齢の一人暮らしの母のことや自分の、今後やっていけないことを広い視点でわかったこと。(50歳代、女性)
- * 終活のネガイメージが意外でした。終活ノートは「いつか記入」ではなく、今時点の気持ちを即記入し、毎年見直しくらいの位置付けで、気軽に書けたら良いと思いました。(50歳代女性)
- * 終活、ACP、エンディングノートなどの意味が、よく理解できた。死はプロセスである事など(60歳代、女性)
- * 終末ケア～私自身は終末期に向けて、①アイバンクの登録 ②臓器提供意思カード(③尊厳死協会)を準備していますが、救急搬送→入院といった際に家族や医療機関が対応して頂けるか不安です。(60歳代、女性)
- * 日々の生活に追われ、終活についてほとんど取り組んでいないので、焦りを感じました。これから少しずつ取り組んでいこうと思います。大変参考になりました。(70歳代、女性)
- * 書類整理について→デジタル化(70歳代、男性)
- * 他人事ではない「終活」についてアタマの整理が出来た。(80歳代、男性)
- * 自分自身が悩んでいる問題について、どのように解決なさったか、具体的なお話が聞きできてとても有難かったです。(80歳代、女性)
- * 自分自身が80歳代となり、終活に何をしたらよいか、常に気がかりだった。人生の終わりを自分でどうまとめるか、考え方が参考になりました。前向きに？また現在も有意義に生きていこうとあらためて思います。(80歳代、女性)
- * ・終活、誰の為→自分の為、家族のため ・断捨離→わかっている、出来ない事が多い(私の終活を参考にして、やってみたい)(80歳代、男性)
- * 「人生会議」(ACP)のあり方。夫婦間贈与契約書。(80歳代、男性)

2. 2025年度連続講座第2回・第3回開催のお知らせ

＜講演内容・日程（開催時間は、全て14:00～16:00）＞

◆第2回10月18日(土) 谷口 佳充(三井住友信託銀行 人生100年応援部特別理事
法制審議会民法(遺言関係)部会委員)

テーマ:「超高齢社会のおカネと相続/死後事務～Advance Life Planning のススメ～」

◆第3回11月8日(土) 中村 昌子(シニア社会学会理事 グリーフカウンセラー
上智大学グリーフケア研究所認定臨床聴士)

テーマ:「グリーフケアとグリーフワークの基礎知識」

※ オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

□主 催:一般社団法人シニア社会学会・東京家政学院大学共催

□会 場:東京家政学院大学三番町キャンパス1602教室、Zoom 併用によるハイブリッド開催

□参加費:会員・非会員:各回1,000円(学生:無料)

□申込方法:

①Peatixで申し込まれる場合(会場参加・オンライン参加) <https://renzokukouza.peatix.com/>

②Eメールで申し込まれる場合

シニア社会学会Eメール(jaas@circus.ocn.ne.jp)へ以下の事項を記載し、お申込み下さい。

- ・お名前
- ・参加区分(会員/非会員/学生【大学名と学部を明記】)
- ・参加講座(第二回/第三回)
- ・参加方法(会場参加/オンライン) オンライン参加の方は事前に参加費をお振込みください。

※ 詳細については同報のチラシをご覧ください。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第174回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年10月22日（水） 18:00～20:00
 - 2) 報告者：駒村康平 慶応義塾大学教授
 - 3) テーマ：「産福共創モデルから考える地域共生社会」
 - 4) オンラインで開催いたします。
- ※ 参加を希望される方は、阿部（fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp）にご連絡ください。
資料をお送りいたします。
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(2) 第79回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年10月22日（木） 18:00～20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学26号館1102会議室
 - 3) 報告者：カルメン・グラウ氏（地域社会と危機管理研究所 招聘研究員）
 - 4) テーマ：「バレンシアにおける水害管理：【第2回調査】洪水対策改善と国際会議参加」
 - 5) 開催形式：対面とZoomのハイフレックス開催
- Zoom 参加 ミーティングID: 970 7367 5435 パスコード: 240389
- ※ ご連絡ご質問は 松村 治 o.matsumura@kurenai.waseda.jp までお願いします。

(3) 第61回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年10月25日（土） 18:30～20:30
 - 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
 - 3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員
 - 4) テーマ：人形劇その他
- 劇団 ^{びしょうざ}「B笑座」
- 認知症を可視化し、人形劇、寸劇などを行います。劇団員募集しています。
- ※ お問い合わせは、鈴木 眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）までお願い致します。

(4) 第66回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年10月29日（水） 17:30～19:30 Zoom 開催
 - 2) テーマ：おばちゃん力とともに生きる
- 担当・栗野牧子（岩手県北上市 小学校教師リタイア後、農業従事者）
- ※ ご連絡ご質問は、中村昌子（nakamurayoshiko6@gmail.com）までお願いします。

(5) 第62回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年11月19日（水） 15:00～17:00
 - 2) 場 所：Zoom 開催
 - 3) 報告者：全員で検討
 - 4) 概 要：「高齢者を狙ったサイバー犯罪について意見交換」
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(6) 第111回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年12月18日（木） 15:00～18:00
 - 2) テーマ：「バーンズのAGIL 図式に基づく地域コミュニティ分析」
 - 3) 発表者：大下勝巳 （参加費：300円）
- ※ 第110回研究会は10月6日（月）に開催済。
- テーマ：「コミュニティにおける社会関係資本形成の実際」
- 発表者：安田和絏が行った。JASS News 第315号にて報告予定。

※ 11 月は休会。

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第109回「シニア社会のリテラシー」研究会報告要旨

1) 日 時：2025年9月18日（木） 15：00～18：00

2) 会 場：早稲田大学国際会議場 4階第6共同研究室 出席者 8名

3) 共通テーマと発表者：コミュニティ発達の鍵となる社会関係資本の蓄積と活性化

「自宅マンションでの自治会活動から」；本田恭介

「発達の二つの原則『個人化』と『社会化』の促進を検討」；大下勝巳

本田さんは船橋市の自宅マンションのコミュニティの特徴として「個人化・誰かがやればいい」を挙げている。「相互関係しながら生活している意識・感覚が無い、自分の事で精一杯」、結果的にフリーライダーの人になっていると。コミュニティ発達の鍵は継続した啓発、活性化策だという。声掛け、ラジオ体操や勉強会等の開催、掲示板・案内ポスターなどによる情報の共有にあるとの主張。

大下さんからは、社会関係資本の概念を地域を繋ぐネットワーク・つながりから生まれる信頼関係、支え合い・ボランティア精神、課題発見・合意形成力であると説明された。そして「個人の自律」と「相互依存関係」は表裏一定であると。

人間は、群れをなして生きることによって社会性が生まれ生き延びてきた。生物として群れて生きる個人化・社会化が社会関係資本をつくるのだ。個人化と社会化は、換言すれば協働行為と利他性、社会的分業とも言えるが、コミュニティ形成に不可欠であることをと強調。

今や都市型コミュニティの時代。自律し個人化した者同士が、コミュニティを形成する（＝社会分業の）時代である。更に従来の地縁型コミュニティと異なるテーマ型コミュニティに道を開くことが新たな道という貴重な知見が示された。

濱口座長から、「これまで数回にわたる研究会を通じて、コミュニティについて多様な視点から理論と事例を交えて論議し、深く理解が進められたことが何よりの成果であった」との総括コメントでした。

（安田和紘 記）

(3) 第65回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2025年9月24日（水） 17：30～19：30 Zoom 開催

2) テーマ：読書会『人はどう老いるのか』『人はどう死ぬのか』

（どちらも久坂部羊著・講談社現代新書）を読んで。 ファシリテーター・柴本淑子
誰でも自分の老いや死を考えたくはないし、自分とは無縁のものだと思いたい（そんなはずはないのだが）。採り上げた本は医師で作家の久坂部羊さんが書いたヒット作。久坂部さんは現在 70 歳。在宅医療に従事し、高齢者の最期に立ち会ってきた。だからこそ描ける老いと死のリアルな実態にはかなりのインパクトがあり、会員の感想は「目からウロコだった」。とくに家族が望む蘇生処置、延命処置の現実が壮絶だ。医師は家族の希望に従って行うものの、本人にはかなりの苦しさや痛みを強いることになり、本当に必要な処置だろうかとの疑問を投げかけている。マスメディアや商業主義の浮かれた情報にのせられて「いつまでも若々しく元気で」や「これで認知症は防げる」と紹介されるいろいろな商品や方法には、医学的なエビデンスがないものが大半。長生きすれば、誰でも心身ともに老いてあらゆる病気の危険性が増し、その先には死が待っている。その現実をしっかりと受けとめ、上手に老いる人は「足るを知る」人だと説く。今回参加の会員のほとんどは年齢層が高く、この本は今後の生き方や覚悟への参考になると評価が高かった。中には、この本は医者からの視点のみで、患者が長く生きることを否定しているのではないかと意見や東洋医学ではどう考えるだろうかなどの見方も提案され、2冊の本を通じ各々の死生観も交えた意見交換の場にもなった。

（柴本淑子 記）

(3) 第173回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2025年9月24日(水) 18:00~20:15
- 2) 報告者：小賀野晶一 千葉大学名誉教授
- 3) テーマ：「認知症の人の意思決定——寛容の民法論からのアプローチ」
- 4) 参加人数：16名

明治以来の伝統的な民法では、個人の自由意思を重視し、意思能力があることを前提にしている。医療における同意であるインフォームドコンセントについて、意思能力を欠く認知症の人の場合には、家族による同意が慣習として認められてきた。2000年にスタートした成年後見制度では、後見人は日常生活や財産管理の事務を担当するが、原則として医療同意は含まれない。予防注射のような軽微な医療について後見人の同意は可能だが、心臓手術のような侵襲性の高い医療については、同意することができないというのが、広く受け入れられている考え方である。

しかし、認知症の人のQOLを高めるためには、本人の意思を最大限尊重するとともに、第三者である後見人の関与を認めてもいいのではないのか。実際に、社会福祉の領域では社会福祉士などが、かなり踏み込んだ決定を行っている。認知症の人の意思決定を支えるには、医学的知見、倫理、法の3要素に加えて、社会学や心理学の知識に基づいて意思決定の実務を実施する必要がある。私的自治や合理性を追求する伝統的な民法論に対して、「寛容の民法論」では人間尊重の原則に立ち、本人にとっての最善の利益を実現することをめざしている。

世界各地において、自国や自国民ファーストを唱え、人種や思想信条を異にする人々を排斥する傾向が強まっている今日、自分と異なる存在を認めていく寛容の精神を持つことの必要性を痛感させられた。

(袖井孝子 記)

(4) 第60回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年9月27日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：人形劇、その他

(鈴木眞澄 記)

(5) 第61回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2025年10月8日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 報告者：安田和紘
- 4) テーマ：「特殊詐欺の心理学」(越智 啓太 編集代表、誠信書房、2024)の報告
- 5) 概 要：

- ・特殊詐欺とは、電話やSNSを通じて被害者を信頼させ、非対面で金銭をだまし取る犯罪である。
- ・被害を防ぐためには、犯行過程における「阻止機会」を確保することが重要である。第一に固定電話の防犯機能(録音・ナンバーディスプレイ)設定、第二に通話前の確認習慣、第三に家族や地域の気づき、第四に金融機関やATMでの声かけが挙げられる。被害者の多くは「自分は大丈夫」という楽観的認知を持ち、防犯行動を怠りやすい。
- ・対策としては、詐欺手口の周知に加え、ナッジ(行動を促す心理的仕掛け)の活用が効果的である。「あなたの留守電設定が周囲の安全にもつながる」といった利他性への訴えが行動変容を促す。また、地域行事や交流機会を増やすことで、孤立を防ぎ、詐欺の看破力を高める。

【総括】

- ・特殊詐欺は個人の問題ではなく、社会的孤立・高齢化・デジタル環境と結びついた構造的課題である。心理的特性の理解、ナッジ活用、地域連携、AIやアプリの導入など、「人の行動を変える」仕組みづくりが有効な防止策である。

(森やす子 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

◆さわやか福祉財団「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2025」開催のお知らせ (再々掲)

誰もがいきいきと地域とつながりながら暮らしていくために、どう取り組めばよいのか。全国各地で実践を重ねている地域づくり関係者の皆様に応援するため「いきがい・助け合いオンラインフェスタ」を開催します。テーマは、生活支援コーディネーターと協議体の取り組みや共生型居場所、有償ボランティアの進め方から企業との連携まで、各分野の具体事例をもとに、住民が主体的に参加する地域共生社会の実現に向けた多様なアプローチをご紹介します。

■主なテーマ(現段階の予定)

- ・オープニングフォーラム：「みんなの参加で地域共生社会を実現しよう」
- ・特別トーク：各分野の代表者による特別講演
- ・学ぼう編：8テーマ
- ・語ろう編(ライブ配信)：3テーマ

■開催概要

- ・開催期間：2025年10月14日(火)～10月23日(木)
※ 11月30日(日)までライブ配信を除くすべてのプログラムがアーカイブ配信で視聴可能
- ・開催方法：完全オンライン配信形式
- ・申込締切：2025年10月23日(木) ※予定
- ・参加費：1,000円(税込)
※ 参加費と同額を当財団の「地域助け合い基金」に拠出して、地域活動を応援します。
※ 後日希望者にダイジェスト資料を送付予定
- ・主催：さわやか福祉財団(シニア社会学会後援)

■問い合わせ先

いきがい・助け合いオンラインフェスタ2025事務局 メール：festa@sawayakazaidan.or.jp
特設URL <https://festa.sawayakazaidan.or.jp/>

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・メールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2025年11月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第315号の発行日は、2025年11月19日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、11月14日(金)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

JAAS News 編集長 松島悦子

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/